

ながった幼稚園様バードピア認定地 野鳥調査報告

2022.12.3

太平電機株式会社
ECOひいきプロジェクト
代表取締役社長
樋口公平



地方創生 SDGs
官民連携
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



この資料はCO2を発生しない
電力で作製しました。



太平電機株式会社 ECOひいきプロジェクト

調査時使用したもの

- 自動車1台 . . . 現地訪問用
- 望遠鏡 . . . 20倍
- 三脚 . . .
- カメラ . . . 500mm一眼レフ
- 双眼鏡 . . . 8倍
- 記録用紙
- 筆記具、携帯電話、飲み物持参。



裏山エリアの野鳥 ラインセンサス調査

- 【日時】 2022.12.3 9:02～9:20 18分
- 【場所】 駐車場から裏山に上り頂上まで行き、同じ山道を引き返すコース。
- 【コース】 駐車場→登り口→きり坂→ち坂→さくら坂→もみじ坂→すぎ坂→どんぐり広場→逆コースを下る(下りは上りに記録ない種のみ)
- 【調査法】 ラインセンサス法→時速1キロ程度の徒歩、前左右上空に出現する野鳥の姿と声を確認し種類と数を記録。
- 紅葉している。落ち葉が多くなっていた。



ビオトープエリア 定点調査

- エリア内に立ち、いる野鳥、飛来する野鳥の種類、行動を声、姿を確認し記録した。
- ①2022.12.1 9:50～10:04 14分 入り口側に立ち調査
- ②10:04～11:18 井戸側に立ち調査。(数は記録しない)
- 双眼鏡、望遠鏡、カメラを使用し野鳥の種類と行動を調査
- 今回は餌台が設置されていた。



①調査
定点

②調査定点

調査結果 一覧表

日付	鳥類目録7版順		2022.12.03						
累計種数	科	園敷地内確認種	裏山エリア	裏山センサス確認数	ビオトープエリア	留/夏/冬	主な利用	環境省RL	神奈川県RL
1	タカ科	ハイタカ			○	留鳥	林上空	準絶滅危惧	希少種
3	カラス科	ハシボソガラス	○	1		留鳥	住宅地		
	カラス科	ハシブトガラス			○	留鳥	林		
4	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	1	○	留鳥	餌台		
6	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	8	○	留鳥旅鳥	林		
	ウグイス科	ウグイス			○		林床		
7	メジロ科	メジロ	○	14	○	留鳥	林		
合計	6	7	4		6				
外来種	チメドリ科	ガビチョウ			○	留鳥	林		

【考察】 裏山4種 24羽 ビオトープ域6種類 全域合計7種類

調査後の報告 裏山のラインセンサス調査考察

- 【考察】
- 裏山では4種が確認できた
- メジロが山頂部を次々に移動し合計14羽を確認。冬の群れが形成されている。
- シジュウカラは前回に続き連続で確認
- ヒヨドリも林内、周辺で多く確認。
- 東隣りの民家に柿の木が実っていて、メジロ(写真右)、シジュウカラ、ヒヨドリ(写真左)が採食していた。これらが裏山調査で記録されている可能性がある



調査後の報告 ビオトープエリア定点調査考察

- ビオトープ域では合計6種が確認できた。
- **ウグイス**が林床のアズマネザサの中で地鳴きし、さらに竹林の中でも地鳴きしていた。ここで越冬する可能性があり、次回の調査でも重点的に確認する。
- **シジュウカラ**が多く、ヒマワリの餌台に集まってきていた。**同時確認は6羽、1時間当たりの餌台利用回数は50回**であった。⇒★詳しくは次のシート
- ビオトープの直接の利用(水飲み、水浴び)する野鳥は見られなかった。
- **ハイタカ**が上空を旋回した。その後南に飛去した。撮影はできず。その際それまで餌台を訪れていた野鳥が来なくなった。
- **メジロ**は柿の餌台を訪れたと思われ嘴に実を啜えるのを確認。1回のみ。



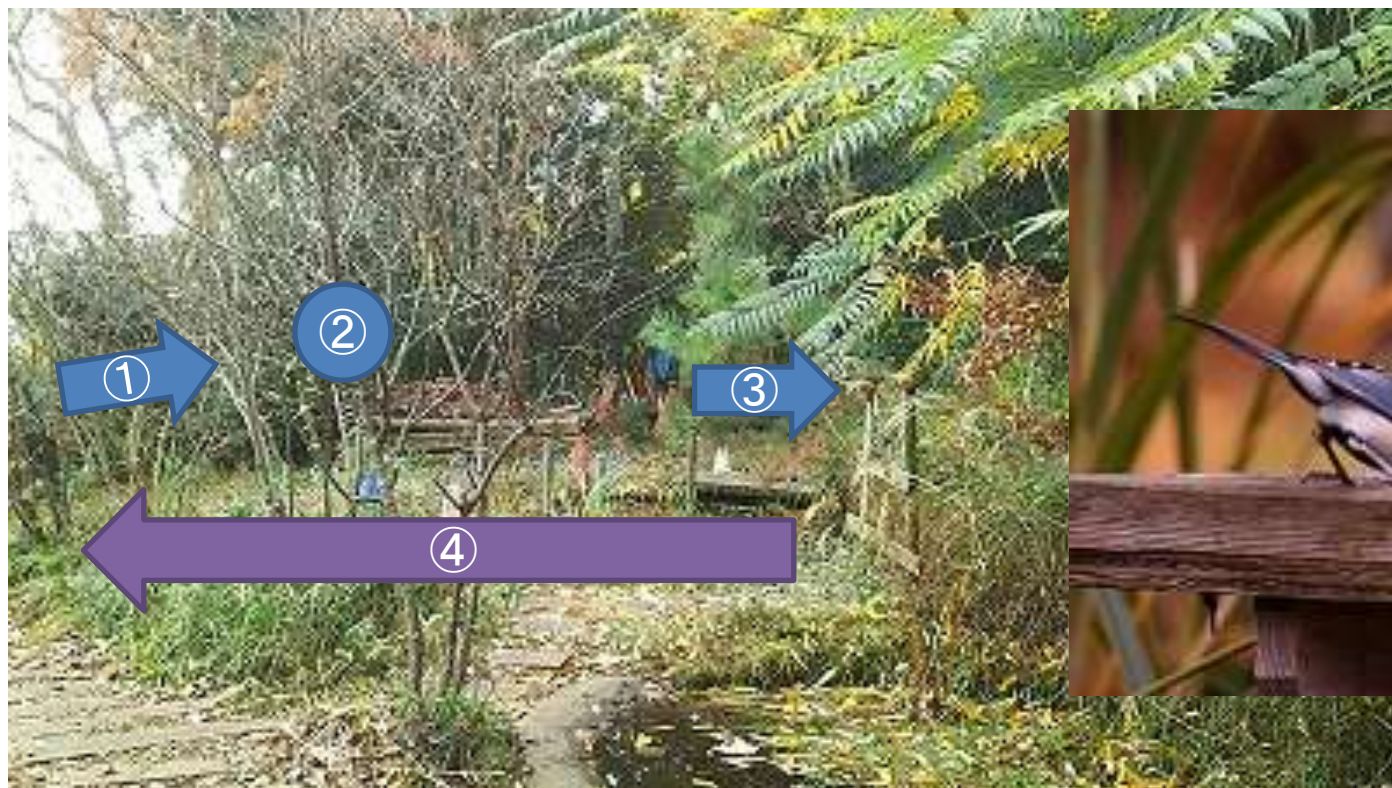
ウグイスが潜む



ハイタカが旋回した上空

ビオトープエリア餌台シジュウカラの飛来について

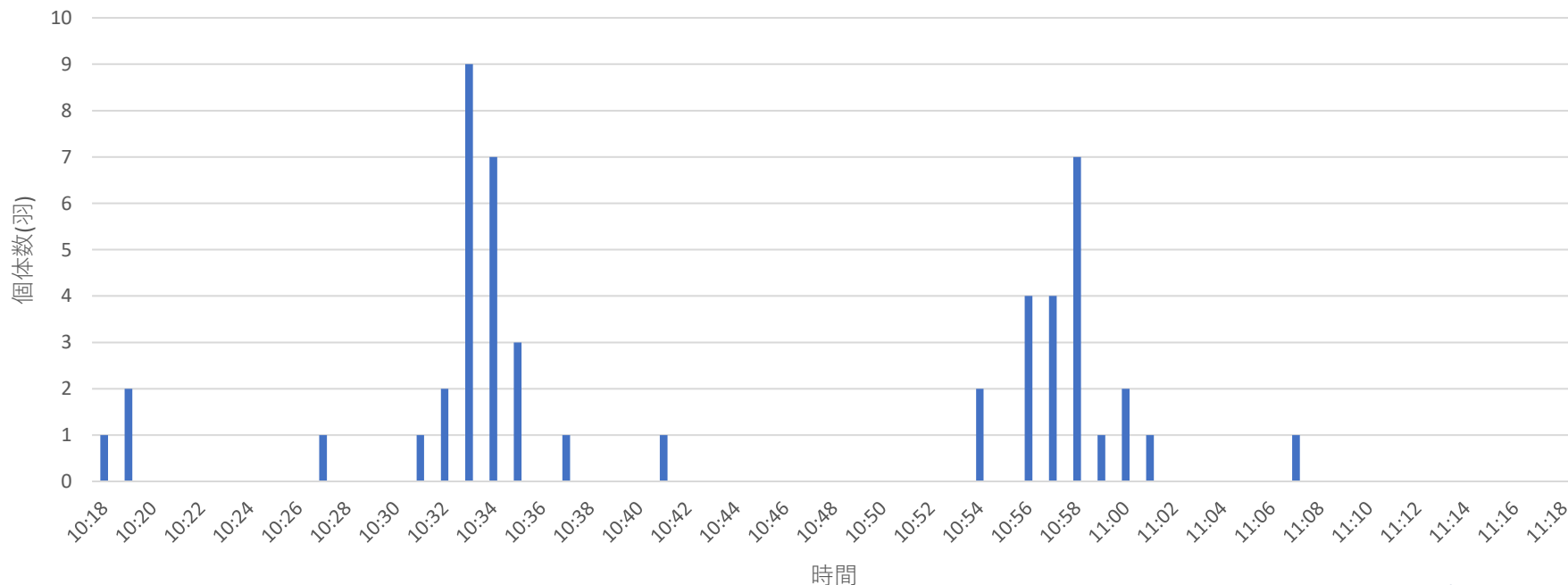
- ①北の宅地方面からビオトープエリアに飛来し、②一度ビオトープすぐ北側の木にとまり様子をうかがう。③その後餌台に飛来する。飛来後は一瞬で種をくわえ、④元来た方向に飛去する。一部が北側の木で種をつついて割り、中身を食べる。
- 餌台には同時に最大2羽でほとんどが1羽。下記②で次の鳥が待機していた。
- ヒマワリの餌台にほとんど来て、柿の実の餌台は1羽だけ利用した。



ビオトープエリア餌台シジュウカラの利用について

- ヒマワリ種の餌台に来たシジュウカラの個体数を調べた
- 時間は10:18～11:18の1時間
- 合計飛来数50羽
- 分単位でカウントしたが、60分中18分間にシジュウカラの利用があった
- 大きな波が2回あり、1羽から数羽で来始めるとまとまった数が来てピークを迎え、数羽になりいなくなるという波を繰り返した。
- 餌の少ない冬季に、多くのシジュウカラの越冬をこの餌台での給餌が支えている

ヒマワリ餌台利用のシジュウカラ個体数



餌台とその設置場所について

- ビオトープの近傍にある・・・水場とセットとなっている
- 高さが1mほどある・・・猫にやられにくい
- 平たい台である・・・猫にやられにくい
- 近づいてきたシジュウカラはほぼすべて餌台を利用した。(警戒はしている)
- 猫がビオトープエリアに侵入したが、襲われる、狙われることはなかった



餌台の種類と場所について

- ①どんぐり・・・裏山の山頂付近に設置 利用確認はできなかったが、ヤマガラ、カケスなどに可能性がある
- ②ヒマワリ・・・ビオトープエリアでシジュウカラが利用
- ③柿・・・ビオトープエリアでメジロが利用したと思われる
- ④粉状 不明・・・ビオトープエリア・・・利用は確認できず



1



2



3



4

実のなる木について

- ①センリョウ・・・裏山内。ヒヨドリなどが利用する。今回は確認できず
- ②ツルウメモドキ・・・ビオ入り口 ジョウビタキなどが利用する。今回確認できず
- ③ウメモドキ?・・・ビオトープエリア シジュウカラが採食した。
- ④ビワの花・・・グラウンド側 メジロが利用する 今回確認できず



多くの実や花の咲く木があり、野鳥が利用できるようになっていました。

植生の管理について

- ①枯れ木・・裏山山頂部 コゲラやアオゲラが餌場として利用可能。利用したと思われる穴があいていた。今回野鳥は未確認
- ②落ち葉・・ビオトープ域 ツグミ類が昆虫,ミミズ採食の可能性 今回未確認
- ③アズマネザサ・・・ビオトープ域南斜面 ウグイスが利用したのを確認

※通常切る、捨てる、刈るなどの管理が考えられますが、野鳥のために様々な環境を残すことで野鳥の種類が多くなる可能性が見られます。

- ・今後調査で利用を明らかにしたい。



種ごとの解説 シジユウカラ

- 一年中みられる留鳥
- 市街地から林にまで生息
- 春は繁殖期で青虫を取り子育てをします。
- 樹洞で繁殖しますが、都市部では少ないため、巣箱を代用して繁殖しています。
- チュピチュピ、チュンチュンピなど繰り返しさえずりします。
- 冬にはカラ類やメジロ、コゲラなどと混群を作り林内を移動します。
- 複数の鳴き声を組み合わせ「文法」を用い、互いに連絡を取り合っている事が解ってきました。
- オスは胸の縦の帯が太くメスは細いので見分けてみてください。



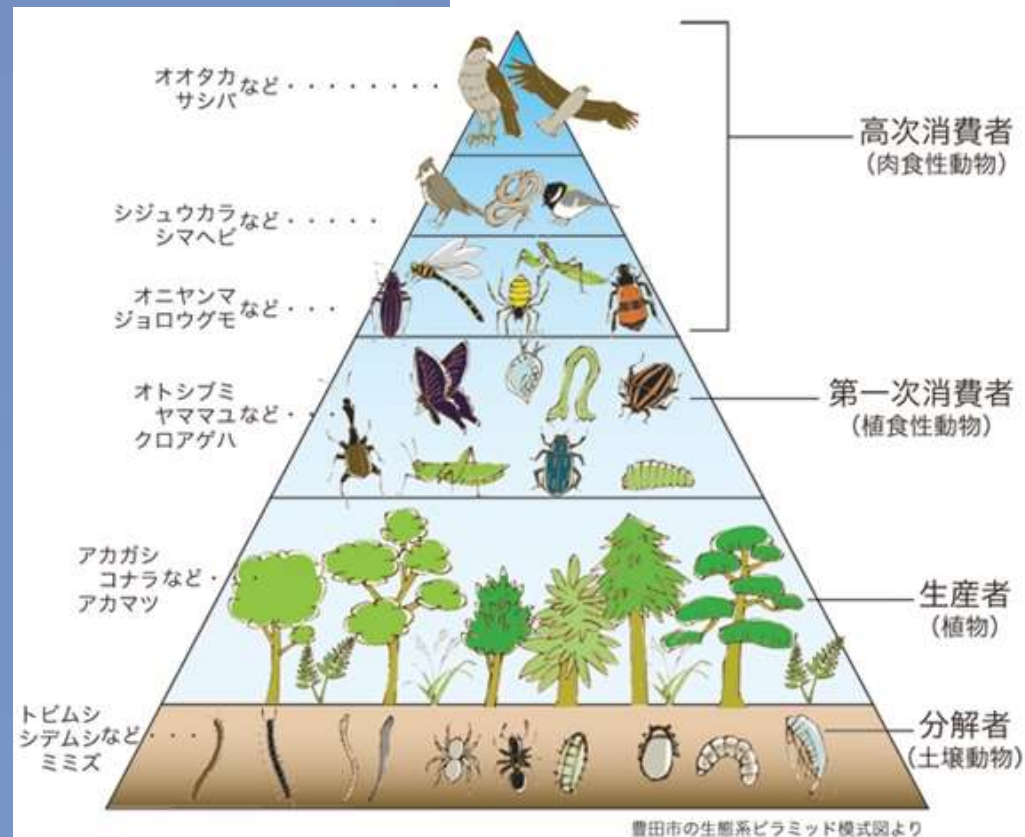
ビオトープ域で、餌台の順番を待つシジユウカラ

シジュウカラ動画



種ごとの解説 ハイタカ

- 神奈川では冬鳥
- 環境省レッドデータ準絶滅危惧種、神奈川県レッドデータ希少種
- 雑木林やその周辺に生息します。
- 小鳥類を餌にします。
- 生態系の頂点の生き物で一羽のハイタカが冬を越すには多くの小鳥類が生息できる必要があります、それらが暮らせる環境が必要です。



豊田市の生態系ピラミッド模式図より

株式会社 ECOひいきプロジェクト